



平成 22 年 10 月 22 日

各 位

会 社 名 株式会社免疫生物研究所  
(コード番号：4570)  
本店所在地 群馬県藤岡市中字東田 1091-1  
代 表 者 代表取締役社長 清 藤 勉  
問 合 せ 先 取締役経営企画室長 木 下 憲 明  
電 話 番 号 0274-22-2889 (代表)  
U R L <http://www.ibl-japan.co.jp>

## 「中期経営計画」の見直しについて

当社は、平成 21 年 10 月 26 日に公表いたしました平成 23 年度（2012 年 3 月期）までの「中期経営計画」を下記のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 修正の理由

当社は、平成 23 年度までの「中期経営計画」の策定以来、目標の達成に積極的に取り組み、当初「中期経営計画」に掲げていた施策も順調に推移し、研究用関連事業及び医薬関連事業における自社製品の売上高が前年度と比較し大幅に増加しております。また、高崎本社と藤岡研究所統合並びに新システムの稼働も完了し、経営の合理化及びコスト削減を目指し、現在全社一丸となり、目標達成に向け邁進しております。

このような状況の下、米国タコニック社との日本での独占販売代理店契約が終了（平成 22 年 9 月 10 日発表の「米国タコニック社の遺伝子改変マウス及び遺伝子改変ラット製品の日本での独占販売代理店契約終了に関するお知らせ」参照）したことにより、厳しい事業環境に追い込まれており、大幅な経営指標の数値目標の下方修正（平成 22 年 10 月 22 日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」参照）を余儀なくされました。

当社としましては、ベンチャー企業のあるべき姿に立ち返り、こうした経営環境に見合った企業構造への再構築を行い、収益力の更なる強化を図るために現「中期経営計画」について見直しを実施することにいたしました。

#### 2. 今後の重点追加施策

- (1) 三笠研究所（北海道三笠市）において、抜本的な組織改定を 2011 年 3 月期までに実施し、人件費の大幅な削減を行ってまいります。
- (2) 営業部門において、国内販売と海外販売の業務を統合し、営業部門全体の業務効率を改善し、人件費の抑制および自社開発製品の販売増に注力していく所存であります。
- (3) 蚕事業につきましては、平成 23 年 4 月までにネオシルク研究所（広島県東広島市）を藤岡研究所（群馬県藤岡市）に統合し、群馬県との共同研究を推進しながら、蚕による抗体生産体制を早期に確立し、蚕による抗体医薬を目指すとともに、自社抗体製品の生産効率を飛躍的に改善していく所存であります。

- (4) 研究開発につきましては、ベンチャー企業のあるべき姿に立ち返り、抗体医薬の研究をより一層推進し、ライセンスの導出に資源を集中してまいります。また、現在公表しているパイプラインにつきましては、順調に進行しております。
- (5) 当社の経営環境に見合った企業構造への再構築を行い、収益力の更なる強化を図るため、早期退職の斡旋（平成 22 年 10 月 22 日に公表いたしました「人員削減等の合理化および特別損失計上に関するお知らせ」を参照。）を実施することといたしました。

### 3. 経営指標

〈当初中期経営計画〉

(単位：百万円)

	2009年 3月期実績	2010年 3月期見込	2011年 3月期計画	2012年 3月期計画
売上高	1,036	1,030	1,200	1,285
(研究用試薬関連)	(563)	(550)	(605)	(645)
(実験動物関連)	(359)	(343)	(355)	(400)
(医薬関連事業・他)	(114)	(137)	(240)	(240)
売上原価	576	540	620	645
販管費	842	680	645	635
営業利益	382	190	65	5
			営業C/F 黒字化を目指す	営業利益 黒字化を目指す

〈修正中期経営計画〉

(単位：百万円)

	2009年 3月期実績	2010年 3月期実績	2011年 3月期計画	2012年 3月期計画	2013年 3月期計画
売上高	1,036	1,059	1,020	830	880
(研究用試薬関連)	(563)	(537)	(610)	(660)	(700)
(実験動物関連)	(359)	(369)	(240)	-	-
(医薬関連・他)	(114)	(150)	(170)	(170)	(180)
売上原価	576	558	500	380	340
販管費	842	686	680	550	530
営業利益	382	185	160	100	10
			タコニック社との契約9月末終了	・重点追加施策の実行により、人件費、コスト低減	・蚕事業による製造費低減 ・蚕事業を含む自社開発製品の売上増
				・営業C/F黒字化を目指す	・営業利益黒字化を目指す

\*2011年3月期計画の経営指標は、平成22年10月22日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました。

\*2012年3月期計画および2013年3月期計画における実験動物関連の売上高は、僅少なため研究用試薬関連に含めて記載しております。

\*本「中期経営計画」は現時点で入手可能な情報に基づき策定したものであり、今後の事業環境などさまざまな要因によって、実際の業績はこの「中期経営計画」の数値目標と異なる可能性があります。

以上